

vol.
64
2026
spring



Osaka Kyoiku
University
Public Information
Magazine

大阪教育大学広報誌

Ten You

天遊

Students Now!

ラボ訪問

卒業生CATCH!

第69回定期演奏会

附属学校園ウォッチ

今号の表紙学生

TOPICS



サポートが充実!

特集

4つの 支援ルーム

4つの支援ルーム

サポートが充実!!



+++++

学校インターンシップや教育コラボレーション演習の支援はここ！

教育実践支援ルーム

教育実践支援ルームでは、教職や子ども理解など学校教育について、校長経験者の教育実践アドバイザーが相談に応じます。また、教育実践活動に役立つ資料を収集する場としても活用できます。

場所 柏原キャンパス 事務局棟3階



教育現場での活動をサポート

- 教員の仕事を具体的に説明
- 児童生徒を理解する具体的方法
- 「集団づくり」の具体的方法
- 子どもとの関わり方
- 学校サポート活動（ボランティア）の相談・登録
- 学校インターンシップ受入校における
 - ・特別支援学級での介護等体験受入支援
 - ・教育実習の受入支援



学校インターンシップ校で介護等体験や教育実習を行えば、子どもや教員とつながりながら、実践力を磨き、教職の専門性を高めていくことができます。

資料収集・学び合いの場

- 教育実習、**学校インターンシップ**、**教育コラボレーション演習**に役立つ資料の閲覧
- 友人と一緒に学び情報共有 など

- #### 学校インターンシップのねらい
- 学校を教職員の視点から経験し、理解する
 - 学校教育の現場において、大学での学びにつなげる
 - 学校での事象を深く洞察する力を養う
 - 教師になる上で自分が今後学ばべき事柄を見つける
 - 自分の強み、課題への関心、ものの見方を探る

- #### 教育コラボレーション演習のねらい
- 自身の「**専門性**」や「**得意分野**」が生かせる演習先で実践力を磨く
 - 実際の社会で「**協働性**」を伸ばし「**多様性理解**」を深める
 - 「**教育コラボレーション演習**」を通して得た気づき（発見や課題）を振り返り、自身の大学生活に生かす
 - 「**課題探究プログラム科目**」や「**卒業研究**」に繋げる

障がいのある学生の支援はここ！

障がい学生修学支援ルーム

障がい学生修学支援ルームでは、障がいのある学生に向けて合理的配慮を行うための支援活動を行っています。

場所 柏原キャンパス C6棟2階北西角



場所 天王寺キャンパス 中央館2階204



ニーズに応じた支援

- 【支援内容】
- 修学相談
 - 支援計画の作成
 - 定期試験等での配慮
 - PCテイク
 - 映像情報の文字化
 - 移動の支援 など

繋がる・広がる「多様な活動」

支援活動以外にも、学生主体のプロジェクトを行っています。障がいや支援について学び合い、学生同士の交流の場を作る「**支援の輪を広げたいわ!**」や、学内でサツマイモの栽培を行う「**おいもプロジェクト**」を実施しています。

サポート学生による支援活動

- 【活動内容】
- PCテイク ● 手話
 - 授業資料のテキストデータ化
 - 動画資料への字幕挿入
 - 企画運営 など



みんなで楽しくサツマイモを収穫中!



テーマに沿って意見交換をする学生

4つの支援ルーム

サポートが充実!!

+++++



外国語学習や
留学の
支援はここ!

外国語学習支援ルーム Global Learning Community

外国語学習支援ルーム (Global Learning Community)では、「英語をもっと話せるようになりたい!」「留学をしたいけどどんな準備をしたらいいんだろう?」など、学生の外国語学習や留学に関するサポートを行っています。

場所 柏原キャンパス
共通講義棟2階 A-206



場所 天王寺キャンパス
中央館2階201



相談しやすい環境

授業期間中の週2日「ネイティブ教員の1-on-1レッスン」と題し、英語ネイティブ教員による英検やIELTSなどのスピーキング・ライティング対策、発音指導などの個人レッスンを受けることができます。また、海外留学の経験がある学生スタッフによる留学相談なども随時実施しています。



留学生との交流

留学生を迎え、文化や習慣・言語などについてカジュアルにお喋りします。お昼休みに本場で教員をしている留学生(教員研修留学生)と楽しく英語で話すランチタイムチャットを、年間を通じて開催しています。また学生企画による、中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語をそれぞれ母国語とする留学生とのチャット機会もあります。



留学生との交流

パソコン関係の
支援はここ!

ICT教育支援ルーム

ICT教育支援ルームでは、大学のICT教育全般の技術的な支援を行っており、必携パソコンをはじめとするICT利用をサポートしています。

場所 柏原キャンパス
共通講義棟3階 A-312



活動内容

【ICT環境セットアップ支援】

新入生のためのICT環境のセットアップマニュアルを作成し、新入生ガイダンスでは実際にセットアップ支援を実施しています。

【広報活動】

PCやWi-Fiの困りごとなどの対処法や開室状況をX(旧twitter)とInstagramで発信しています。

よくある相談内容

- 必携のPCを買ったけど、PCを使うのは初めてでよくわからない
- 大学の授業を受けるためには、PCにどんな準備をしておけばいいの?
- ウィルス対策がきちんと出来ているか不安
- PC・スマホ・タブレットの便利な使い方が知りたい!
- PCで講義ノートをとりたい!
- 多要素認証の設定がうまくいかない

活動場面



利用者対応の様子

イベント・学園祭への企画出展

在学生や教職員に限らず、一般の方に向けたプログラミング教材体験や教材の紹介も行っています。



「現状維持は退化」 準硬式野球を 通しての挑戦

Students Now!

スチューデント ナウ

YUKINA
SUZUOKI

教育協働学科
スポーツ科学専攻 4回生

鈴置 結希奈さん (大阪府立四條畷高等学校卒)

鈴置結希奈さんは大学の準硬式野球部でマネージャーをするかわら、全日本大学準硬式野球連盟が主催する「東西対抗日本一決定戦甲子園大会」のプロジェクトリーダーとして、準硬式野球の魅力向上を目的とし、全国のメンバーと連携しながら、甲子園球場での大会開催に向け精力的に活動に取り組みました。全国規模の大会を運営するリーダーになったのは、先輩からの後押しがあったおかげでした。「私はこのプロジェクトに3回生から参加したのですが、来年以降も大会を安定して開催していくために下級生からリーダーを出そうという方針になりました。やってみたいという気持ちはありましたが、大会の全貌もわからない状態で経験のある4回生に指示を出す立場になるのは荷が重く思っていました。けど、そんな様子に気づいてくれた先輩が『わからないことがあったら教えるし、ちょっとでもやりたい気持ち

があるならやってみたら』と声をかけてくれたので立候補しました。リーダーになった後は、広報活動やクラウドファンディングの呼びかけ、冊子の添削作業などすべての活動を管理しました。限られた人数の中で試行錯誤しながら進めた結果、大会を無事に開催することができました。目まぐるしい1年を振り返るときも笑顔で話す鈴置さんですが、その心の根底には「成長できる機会は自分で作る」という考えがあります。それは高校時代の部活の顧問からの言葉が大きく影響していました。「顧問の先生が『現状維持は退化』とずっと言っていて、その言葉が今でも心に残っています。特に大学生は何か挑戦できる時間が多くあるので、この4年間後悔しないためにいろいろなことに挑戦してきました」

リーダーの経験も良い成長機会だったと思り返します。「あのとき怖気づいてやらないという選択をしなくて本当に良かったです。大変なことは多かったですが、最後に甲子園

のマウンドでたくさんの人に囲まれながら話をさせていただいて、リーダーをして良かったと心の底から感じました。この大会の運営以外にも、準硬式野球の全日本学生委員会での運営、関西学生委員会の発足、小さい頃から続けてきたダンスとの両立など、現状維持にとどまることなく多くの挑戦をしてきました。

卒業後は社会人野球に携わる予定の鈴置さん。この4年間貫き通した挑戦への精神を忘れずに臨みます。「社会人になって携わるものの規模が大きくなればなるほど、前例踏襲で精いっぱいになることもあるかもしれませんが、伝統など守るべきものは守りつつ、一つでも新しいことに挑戦したいと思っています」

恩師の言葉を心に刻み、実行し続けた鈴置さんの挑戦はこれからも続きます。その飽くなき探求心と実行力が、今後どのような革新を生み出し、社会に貢献していくのか、大いに期待が高まります。



LAB

ラボ訪問

理科教育の
視点から探る
人間理解

理数情報教育系
(初等教育部門)

岡部 舞 特任講師
OKABE MAI



Q 大学の先生になろうと思ったきっかけは？

A 大学4回生のとき、指導教員の研究に向き合う姿に憧れ、自分も興味や関心を大事にしながら働きたいと思ったのがきっかけです。もともと日常の中にある小さな現象の仕組みを考えたり調べたりすることが好きでした。またそれと同時に、人が学びを通してどのように物事を捉え、世界観を形づくっていくのかにも関心がありました。自然現象を扱いながら人の学びに関われる点に、大学教員としての魅力を感じました。

います。日常と深く結びついた理科という教科を通して、学ぶことの意味を考え、探究心を育ててほしいと考えています。

Q どのような授業を担当していますか？

A 「理科a」や「初等理科教育法」という科目を中心に担当しています。小学校における理科の授業内容で、児童が難しいと感じる部分や実験をする際につまずきやすいポイントを解説しています。教える側にとってはすでに身につけた知識でも、児童にとっては初めて出会う内容であることを意識し、その違いに注意しながら授業ができる先生になってほしいと考えています。

Q ゼミの活動内容は？

A 私のゼミでは、学生自身の小さな「気になる」を研究の出発点として大切にしています。理科が得意かどうかは関係なく、その「気になる」を興味や問いへと育てながら、理科教育の視点からどのような学びや経験につながるのかを、対話を重ねて研究していきます。また、興味を広げるために小学校や中学校等で授業を見学し、子どもたちの様子や、先生の振る舞いに触れるといった活動も行っています。学生の新たな考え方や視点が生まれる瞬間に立ち会えることを嬉しく思っています。



Q 現在の研究内容は？

A 主なテーマは、理科教育の中で子どもたち一人ひとりが理科を学ぶ意味・意義を、自分なりに見いだせるような学習環境をどのようにデザインすればよいか、という点です。例えば、理科の学習を通して感じる「どのような価値があるのか」や「なぜ学ぶのか」といった捉え方が、学習への意欲や取り組み方にどのようにつながるのかを中心に研究しています。長い人生の中で、やはり自分自身で学ぶことの価値を見出したり、目標を立てたりする力はとても重要だと感じて

Q 息抜きや趣味は？

A 学内だと図書館に行って新刊の情報を確認したり、学生の関心の傾向を知る手がかりとして本の動向に目を通したりしています。プライベートだと飼っている猫と遊ぶのが一番の息抜きですね。このときは自分の考えていることが少し客観的に感じられるようになります。あとは料理が好きなので、美味しかったお店の味を家で再現することに実験感覚で挑戦しています。他にも、自然公園や美術館などを散歩するのが好きです。



卒業生CATCH!

特別企画



本学の教養学科(現:教育協働学科)卒業生で、フクシマガリレイ株式会社の代表取締役社長である福島豪氏に、教育協働学科長の町頭義朗教授がインタビューをしました。



教育協働学科長
まち がしら よし ろう
町頭 義朗

フクシマガリレイ株式会社
代表取締役社長
ふく しま ごう
福島 豪
教養学科 情報科学専攻 2001年卒
総合基礎科学専攻 数理情報コース 2003年卒



ガリレイアカデミー



別置型ショーケース
CLEARシリーズ

タテ型業務用冷凍冷蔵庫

日本の「食」のインフラを冷やす技術で支える、フクシマガリレイ

町頭: フクシマガリレイ株式会社の概要を教えてください。
福島: 業務用冷凍冷蔵庫やショーケースなど、ブロの現場や店舗で使われる冷蔵機器のメーカーです。実は日本で最初に業務用冷凍冷蔵庫を規格化したのが、創業者である私の祖父で、その祖父と私の父が二人三脚で上場させた会社です。そこから私が中途入社して、現在では食品工場や冷凍冷蔵の物流倉庫の仕事、医療分野にも進出しています。
町頭: 医療は温度管理が特に厳しいですね。
福島: そうですね。病院や研究機関で使用される薬用保冷庫やインキュベーターなど、食品とは異なる用途で使われる機器の製造・販売も手掛けています。



現在に至るまでの土台を築いた、大阪教育大学での学び

町頭: 当時、大阪教育大学に進学しようと思ったきっかけを教えてください。
福島: 教育に関心があって、国立で一人暮らしができる大学に行きたいと思ったのがきっかけです。
町頭: 教員養成課程ではなく、教養学科を選んだ理由はありますか。
福島: 先生は自分には向いていないかなと感じていました。しかし教育には興味があり、また当時パソコンが流行りだした時期で、直感的にこれからの時代はこれだ、と思い大阪教育大学の情報科学専攻を選びました。学部時代は基礎的なプログラミングを学んでいて、初めて上手く動いたときはかなり感動しました。
町頭: その後はそのまま本学の大学院に進学したのですか。
福島: 父が商売をしていたこともあって、就職活動の時期に、継ぐかどうか悩むことが多くありました。そんな中、当時お世話になっていた指導教員に相談すると『大学院に入って、私のところに来なさい』と声をかけていただきました。その言葉に救われて大学院に進学し、しっかり学ばせていただきました。

モノづくりの原点は、ヒトづくりにある。フクシマガリレイの教育

町頭: 社会人になって大学時代の学びが役立っているなど思うことはありますか。
福島: 実はここ15年くらいの成長の主な要因は、メンテナンスや施工工事の仕事が大きいです。こういった技術者を多く採用することで成長してきたのですが、近年この技術者が業界全体で不足してきています。このまま人手不足が進行すると、特に地方では機器が故障してもいつ修理できるかわからない状態になり、その間そこでは食品が販売できないことになります。そこで、業界全体の人材育成を促進するために、社内に学校を作りました。現在、約200人の卒業生を輩出して全国各地で動いてもらっています。このように技術者を育成する場所を作るという発想に至ったのは、大阪教育大学での学びがあったからだと感じています。
町頭: その学校について詳しく教えてください。
福島: ガリレイアカデミーといまして、約2年の構想を経て設立した学校です。大阪府の短期職業訓練校の認定もいただいでいて、約2ヶ月間をかけて座学と実技、加えて人間として何が正しいかなどの価値観も教えています。この業界

は5年で1人前になると言われているのですが、3年で1人前を目標に、離職率を下げながら仲間を作るために活動を始めました。



製品だけでなく、未来を届ける

町頭: 他にも特徴的な取り組みはありますか。
福島: キッズニア甲子園に、ショーケースを修理するというパビリオンを出しています。保護者がいるラウンジのショーケースが壊れた設定で、子どもたちにタブレットを持たせて修理してもらうというストーリーです。正しく部品を取り替えるとショーケースが動き出して、子どもたちは大喜びしてくれます。
町頭: 製造ではなく「修理」という着眼点はすばらしいと思います。
福島: こういう活動も社会貢献性が高く重要だと思っています。他には、子ども食堂への冷蔵庫

寄贈とボランティア活動を行っています。子ども食堂は、地域の子もたちと一緒に食事をする機会を提供し孤食を防ぐ、地域住民の交流を促進する機関なのですが、災害が起こったときには防災拠点としての役割も果たします。冷蔵庫はそういった場合でも、活躍できるものなので積極的に寄贈しています。

人を磨き、未来を作る。福島社長の「人」へのこだわり

町頭: 福島社長が大事にしている考えを教えてください。
福島: 私はまず「人」が一番大切にします、と社員にはよく言っています。先ほどのガリレイアカデミーの話もそうですが、まず人に投資をして大事にします。企業は人なり、と言いますが、社員が仕事を通じて幸せを感じ、自発的にお客様のために行動する、そしてお客様から喜ばれる会社になるという循環を生み出したいです。私の父もずっとそうしてきたのでこの考えは継承していきたいと思っています。
町頭: 本学のキャッチコピーも「人にまっすぐ」なので通ずる部分がありま

すね。学生に対してメッセージをいただいてもいいですか。

福島: 学生時代にしかできない経験は多くあります。何でもいいので一生懸命取り組んでほしいです。社会人生活に比べて学生時代の時間はとても短いので、失敗を恐れずに挑戦してください。振り返るとそれがかけがえのない思い出になります。私自身、学生時代は悩むことも多くありましたが、その経験が今に生きていて感じています。大阪教育大学で出会った友人・先生とさまざまな話や体験をさせてもらって刺激を受けたというのは今でも記憶に強く残っているので、皆さん全力で楽しんでください。



NPO法人あいあう 子ども食堂

大阪教育大学シンフォニーオーケストラ 第69回定期演奏会

大阪教育大学教育協働学科教育コミュニティ支援専攻芸術表現コース（音楽）及び芸術表現専攻音楽表現コースによる「第69回定期演奏会」の取材に行ってきました。定期演奏会は授業の集大成として、合唱、協奏曲、管弦楽作品を著名なホールで披露するもので、第69回は2025年11月24日に八尾市文化会館プリズムホールで開催しました。

学生たちの想い

もっと良い演奏を届けるにはどうすれば良いか。

私たち大阪教育大学シンフォニーオーケストラは、教育大学ならではの温かさで専門性を大切に、学生主体の自由な音楽作りを続けてきました。しかし近年、弦楽器を専門とする学生の募集を停止したことで、人数が大幅に減少し、オーケストラ編成での定期演奏会の開催が困難な状況に直面しています。オーケストラにおいて、弦楽器は音楽の「土台」として不可欠です。どんなに管楽器や打楽器が奮闘しても、弦楽器が不足すれば全体のバランスが崩れてしまいます。

この現状に対して「もっと良い演奏を届けるにはどうすれば良いか？」を考え、エキストラ奏者の力を借りること、そして、より音響の優れたホールで演奏するという答えに辿り着きました。そこで、それらを実現するために、ご支援・ご協力をお願いしたく、クラウドファンディングを立ち上げました。

定期演奏会の様子

満席のホールで定期演奏会は大成功!



北川 文雄：女声合唱曲集
ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番八短調 作品18
ショスタコーヴィチ：交響曲第5番二短調 作品47
合唱指揮/太田 務、客演指揮/郷 佳宏（ゾウ・ジャーホン）
ピアノ独奏/吉良 奈々香、合唱/大阪教育大学芸音女声合唱団
管弦楽/大阪教育大学シンフォニーオーケストラ



写真左から 山畑 誠准教授（芸術表現部門教員）
平井 貴章さん（音楽表現コース4回生）
小池 悠さん（音楽表現コース3回生）

PROJECT

このまちに響き続ける音がある
—大教大オケ定期演奏会における挑戦—

演奏会本番前に代表教員と学生にお話を伺いました

山畑 学生によるオーケストラの演奏が行われる定期演奏会は、音楽の協働力の象徴とも言え、学生たちのさまざまな想いの結集である演奏会です。

小池 今回のような企画を実行できたのは、残り限られた定期演奏会という機会をより充実したものにするという信念の上に成り立っています。わたしたちは、そのひとときでしか感じることでできない音楽の素晴らしさをより良い環境で聴いているお客さんに届けたいです。

平井 今、わたしたちのオーケストラは弦楽器の人数が非常に少ない状況で活動しています。もし弦楽器の人数を増やすことができるのなら、音楽の厚みや管楽器とのバランスなど、表現の幅がぐっと広がります。わたしたちは、仲間と共に最高の定期演奏会を迎えたいという強い想いのもと、音楽の感動をお客様に届けたいと考えています。

大阪教育大学附属学校園 WATCH

附属特別支援学校でSafety Bicycle推進校指定書交付式を実施

Safety Bicycle推進校指定書交付式を、9月24日（水）に附属特別支援学校で実施し、大阪府警察本部、大阪府教育庁、平野警察署、平野区役所安心安全まちづくり課、平野五校園連合会が参加しました。

Safety Bicycle推進校とは、大阪府警と大阪府教育庁が連携・共同したプロジェクトで、高校生自らが自転車の安全利用を「考え、学び、行動する」ことを目的としています。附属特別支援学校は、大阪府内で45校目として指定されました。

指定書交付式では、SPSサポーター(*)を代表して中学生生徒が「私た

ちも交通安全について、自分で考え、学び、行動することをめざし、自転車の利用については、自分の命を守るためにヘルメットの着用を心がけます。最後に私たちが、交通マナーの改善と自転車事故防止をめざして積極的に取り組んでいきたいと思います。」と決意表明を行いました。

西山健校長は「交通ルールを理解し行動に移すことが大切です。自分が自分のいのちを守る、そして周りの人のいのちを守るにつながります」と児童生徒に向けて語りました。

*SPSサポーター…セーフティプロモーションスクール(SPS)に認証された学校における児童生徒会活動等を通じて、当該校におけるSPS活動の持続可能な発展に活躍することが期待される人材を育成することを目的として、サポーターに任命された児童生徒



附属高等学校平野校舎が「大阪・関西万博パビリオンツアー～高校生が留学生と行く異文化体験～」を実施

附属高等学校平野校舎(WWL拠点校)が「大阪・関西万博パビリオンツアー～高校生が留学生と行く異文化体験～」を、9月27日（土）に大阪・関西万博で実施し、平野校舎、大阪府立今宮高等学校、大阪府立寝屋川高等学校、大阪府立八尾高等学校、大阪国際中学校高等学校の生徒45人と教員研修留学生6人の合計51人が参加しました。

当日は4グループに分かれ、留学生の出身国であるインドネシア、バングラデシュ、マレーシアの3つのパビリオンを巡りました。パビリオン内では、留学生が母国の社会や文化について英語で説明した後、生徒は英語

展に向けた取り組みについて多角的に学びました。参加した生徒からは「実際に留学生の話聞くことによって、単独でパビリオンを訪問した時よりも深い学びを得ることができました」「留学生の姿を見て国際社会で貢献している人に憧れを持ちました」といった声が寄せられました。

で質問を行いました。また、留学生の説明に、一般来場者が足を止めて聞く場面も見られました。その後、生徒は展示物に触れながら各国の歴史や現状、今後の発



フォーク集団ぺんぺん草ってこんなところ!!

今回の表紙に登場してもらったのはフォーク集団ぺんぺん草の学生たち。活動内容やおすすめポイントを聞いてみました!

学校教育教員養成課程
中等教育専攻
理科教育コース 3回生
奥 晴菜さん (写真右側)

フォーク集団ぺんぺん草では定期的にライブを開催し、仲良く音楽を奏でていきます。バンドを組むもよし、弾き語りするもよし、初心者でも経験者でも自由に楽しめるのが魅力です!

教育協働学科
教育心理学専攻 3回生
脇 鈴歩さん (写真左側)

年2回の合宿では、練習だけではなく、BBQやレクリエーションなどもします。ゲームで遊んだり、外で遊んだり、遊び心も忘れない楽しいサークルです!



最新のTOPICSは
こちらからご覧ください



01

柏原キャンパスで 防災訓練を実施



03

令和7年度秋季スポーツ祭・ 第75回神霜祭を開催



02

私立学校の魅力発信を図る 「令和7年度私立学校教員合同説明会」を開催



04

2025年度 学生生活の 「食」の支援「OKU朝食支援事業」を実施



やまお基金 (大阪教育大学基金) へのご協力について

本学では財政基盤を長期的に支えらるとともに、大学及び附属学校園などにおける学生等への支援、教育研究支援並びに国際交流や社会連携の推進等を図ることを目的に「やまお基金 (大阪教育大学基金)」を設置しています。この基金を活用して、教育研究、国際交流、社会連携、教育の高度化、スポーツ・芸術の推進、キャンパス環境整備などの事業を行っています。これらの趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

1000円 クレジットカード等によるインターネットでのお手続きとなります

●基金の詳細は右のQRコードまたは下のURLへ

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/other/foundation/about.html>



●ご協力いただける場合は上記ページの

「大学基金お申込み」ボタンからお手続きください

> 大学基金お申込み

F-REGI 寄付支払い ※所得税等の控除の対象です。

https://kifu.f-regi.com/fc/contribute/osaka_kyoiku

アンケートに答えて 大教大オリジナルグッズをGET!



今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケート(QRコードを読み取ってご回答ください)にご協力いただいた方の中から、抽選で3名様に**大教大ボールペン&マフラータオルを一色ずつ(色は選べません)**進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、フォームにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。

プレゼント応募締切

2026年4月30日(木)必着

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※重複でのご応募は無効とさせていただきます。



アンケートは
こちらから

「天遊」とは

「天遊」とは荘子の言葉で、人間の心の中に自然に備わっている余裕を表しています。キャンパス統合移転の記念碑に銘文として刻まれており、揮毫は故水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。「天遊」の読みからとった「TenYou」は、「十人十色、その中のあなた」というメッセージを込めています。

